

こな二人

長谷川時雨

青空文庫

一人は太古たいこからかれない泥沼の底の主、山椒さんせうの魚うをでありたいといひ、ひとりは、夕暮、
 または曉に、淡く、ほの白い、小さな水藻みづもの花はなでありたいと言ふ、こんな二人。

一人は澎湃ほうはい奔ほん放ぼうたる濁流を望み、ひとりのぞは山影やまかげの苔清水こけしみづをなつかしむ。

『水清みづぎよければ魚すまず、駄目だよ。』

『そのかはりに月影が澄む。』

山椒さんせうの魚うをたる主人と、清からんとして、山椒さんせうの魚うをの住みにくいのを忘れてしまふ私

との問答。

良人をつとさうじう操縦をつとさうじうなぞ夢にも知らず、正直まっぱうを真まっかうにかぎす。知つてゐるのは、夫も

癖の多い人間で、神ではおはさぬことと、もひとつ、悪魔とも懇意な小説家であるといふこと。

世間の男、一度は可愛いと言つたであらう口の下から、夫婦は戦ふのだと、憎々しく言ふ。だから、此處へ、劍法の極意といふやうな譬へをもつて來ても、をかくはしないでせう。

敵を突くには斬られるつもりで――

そこで悟つて曰く、

『操縦するとは操縦されること。』

これでもう、この『良人操縦』といふテストはすんだやうなもの、わたしはのんきに、花を見、空をながめ、小鳥の巢の卵を覗いてゐる。

ま、お茶を一杯。

すつかり青葉になつて、五月の風が吹いてゐる。青葉をもめば青い液しるが出るやうに惱めば思ひはかぎりない。が、何ごともそれにばかりぴつたり執しすぎると、自分の重苦しさに堪へられなくなる。結局墓穴へたどりつくまでの旅を、一日一日と歩くなら、お互ひに氣もちよくゆくこと。伴侶はんりよといふ言葉には味がある。

三上於菟吉の『崇妻道歌』によれば、彼も細君操縦さいくんさうじうについては干物ひものにしてたべるところまで悟入ごにふしてゐる。

一生の重荷となれば、憎くもなり、投りはぶだしたくなる方が道理で、これは『細君つま』であるからの退屈ではない。花火的の情熱の對手あひてなら、猶更その負擔と欠伸は早く来る。

——わが生命いのちをいつくしめ。生活を興き覺よくめたものにするな——

そこで、斬死きりじにの覺悟で對手の胸もとに飛込んでゆく。

わたしといふのんきものは、沼の主山椒の魚の嘆息にさざなみたつ、遙か遙かの頭の上で、水藻の花と咲いてゐる氣持ちでのどかに居る。時折、山椒の魚動き出しての問答が、

『水清ければ魚すまず、駄目だよ。』

『魚は住まらずも月が澄む。』

も一度テストに答へます。

『操縦されてるやうに見える良人をっとなんて、煮ても焼いても食べられるのぢやない。』

(昭和二年六月・女性)

沼の主山椒の魚を望んだ三上於菟吉の『崇妻道歌』に答へさせられた小文。

『崇妻道歌』一聯いちれんがあると、彼の面目躍如みあたたりでこの一文も生いきるのだが、残念ながら函底に見當らない。

青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年2月10日発行

初出：「女性」

1927（昭和2）年6月

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2009年1月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

こなな二人

長谷川時雨

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>